

令和3年度第2回焼津市多文化共生推進協議会議事録

日 時	令和4年3月2日（月）午前9時30分から11時
場 所	焼津市役所 7階 会議室7A
出席委員	高畑 幸会長、鈴木和子委員、佐野清志委員、多々良智彦委員、小池清司委員、小長谷 恭彦委員、津田レヤ キノネス委員、ヤンジカ ソラ委員、小林ミーハン委員、平野一恵委員、須方正和委員
事務局	市民環境部長、市民協働課長、職員3人

会議内容

1 開会

内田部長挨拶

2 協議事項

- ・焼津市多文化共生推進計画施策推進状況について（資料1，2）
- ・施策推進状況に対する評価
- ・多文化共生推進計画の進め方

3 その他

4 閉会

〔資料内容〕

資料1 焼津市多文化共生推進計画施策推進状況報告

資料2 焼津市多文化共生推進計画概要版

〔会議概要〕

(1) 協議事項

焼津市多文化共生推進計画施策推進状況について（資料1）

各課等で実施した取組施策の結果報告

(2) 意見・質問

【小林委員】 コロナの疑いがある人が、災害時に避難所に行けるかどうか。

【市】 避難所は、体調不良者は部屋を分けて対応している。

【平野委員】 中国人、ベトナム人の受け入れをしている。市でコロナのリーフレットを作成してくれたが、中国語とベトナム語がなかった。紙で情報をいただければ、実習

生に渡しやすいし、写真に撮ってメールで送ることもできる。今後ベトナム人は増えていくと思うので、対応をお願いしたい。

【小林委員】非課税世帯への10万円に関して、通知がすべて日本語だった。せめてやさしい日本語で送ってくれるとうれしい。

【市】広報の外国語版やFacebook, ホームページ等で外国語でも紹介している。

【高畑会長】封筒にどんな内容のものが入っているのか、外国語で表記があった方がよい。そうしないと中を見ないで捨ててしまう。

【須方委員】「企業に対する効果的な伝達が難しい」と書かれている。企業によって温度差があると感じている。実習生に着物を着せてあげたり、日本文化の紹介をする企業もあれば、仕事の時間だけの付き合いの所もある。多文化共生の意識啓発が大切だと思う。実習生はどうしても有期の人材（3年、5年、最長10年）のため、企業の取り組みにも課題がある。

【高畑会長】実習生の日本語の学習意欲はいかがか。

【平野委員】能力検定を受けるよう促してはいるが、仕事ができればいいという人も多い。仕事で疲れている子も多いため、日本語教室に通うのが大変。今年度、県がオンラインで日本語クラス（週1、全10回）を開催し、8回以上出席すると修了証書がもらえ、取り組んでいる子もいた。仕事で疲れていて、日本語教室に通うのが大変な子には、オンラインは便利。

【高畑会長】地域の日本語教室が外国人の居場所となっている。コロナ禍で、外国人の地域活動への参加がしづらいがいかがか。

【佐野委員】コロナ3年目で、防災訓練は自粛している。地域でのコミュニケーションが欠如し、それにより他の地域事業へも影響を及ぼすのではないかと危惧している。このような中、災害時にオンラインを情報伝達的手段にできないか、新たな取り組みを行った。避難所には800人～1000人が集まるが、避難所の様子をZOOMを通じて見せながら、状況を報告したり、情報を伝えたりすることで、口頭での伝達よりも確実な情報伝達ができると考える。また、このやり方は外国人への対応にも応用ができるのではないか。

【高畑会長】団地でも防災訓練や地域活動はあるか。

【ツダ委員】（コロナで）防災訓練はない。掃除も中止している。団地内では11軒がコロナに感染していると聞いている。イベントなども中止している。

【小長谷委員】今度新1年生で、幼稚園に通っていない子を対象にプレスクールを開催。今年度は全7回の予定だったが、2回は中止になった。プレスクールでは、着替えや掃除、給食の練習や交通安全について紹介している。会場である大井川南小学校の校長先生からは、「ぜひもっと長くやってほしい」との声があがっている。プレスクールには保護者も来るため、親同士も情報交換ができ、良い事業だと思っている。

【高畑会長】小学校に入学前の親が学校や地域にどうつながるかが重要だと思うが。

- 【ヤンジカ委員】モンゴル人の多くは、父が働き母が子の面倒をみる形が多い。何かわからないことがあったら、モンゴル人のコミュニティの中で相談する。焼津市は、学校での支援が充実しているように思う。情報を情報紙などで提供しているが、市のLINEは使っているか。外国人にもLINEを使って発信したらどうか。また、私は5年間焼津に住んでいるが、まだ一度も防災訓練に参加したことがない。自治会の方々に、外国人がどこにどのくらい住んでいるか把握をしてほしい。
- 【佐野委員】防災委員会を年3回開催しており、私の地域には64人の防災員がいる。防災員に外国人に入ってほしい。そうすれば、訓練の際に、外国人の受付窓口になってもらえる。
- 【高畑会長】ツダさんは団地の連絡係をしているが、防災訓練の呼びかけはしているか。
- 【ツダ委員】訓練の呼びかけはしていない。役員以外は声掛けはしない。
- 【高畑会長】その他、労働関係はいかがか。
- 【小池委員】ハローワークインターネットから、マイページで就業相談ができるようになった。また4月から、英語のみではあるが自動翻訳で求人票の公開をする予定。現在、通訳は週2回程度、スペ、ポ、タガ、英語を配置し、需要が多い。
- 【多々良委員】企業経営者との話が多く、外国人との交わりは少ない。国の制度や支援の仲介をしているが、資料も日本語ばかりで、外国人には情報が伝わりにくいと思う。
- 【小林委員】先日、帰国予定のベトナム人がワクチンパスポートが欲しく、健康づくり課に直接行くように指示をした。本人らより、健康づくり課に行ったが、手続きができなかったと聞いた。市民協働課で支援ができるか。
- 【市】健康づくり課と市民協働課と通訳とで3者通話ができるような仕組みはない。もし相談者が市民協働課に来てくれれば、こちらでタブレットを使い、行いたい手続きや相談事を聞き、それを健康づくり課に電話で確認し、また本人にタブレットを介してお伝えすることはできる。
- 【高畑会長】計画の状況報告の中で、納税関連の評価が高いがなぜか。
- 【市】催告状や呼出状を多言語化したためだと考える。
- 【高畑会長】永住VISAの取得を考えている外国人にとっては、納税は申請に必要なため、関心が高い。
- 【小長谷委員】就学時検診（新1年生を対象）の際に、指導主事や支援員が行き、外国人の方に説明会を行っている。先日、広報で支援員の募集をかけたら、申し込みも多くあり、経験豊かな人がいることが分かった。
- 【小林委員】コロナが流行した当初、焼津市の小学校が早い段階でオンライン授業になったのがうれしかった。今、またコロナがとても流行っているが、なぜオンラインにしないのか。
- 【小長谷委員】オミクロンが流行になり、学級閉鎖はしているが、学校の休校はやっていない。やはり、子どもたちの学びを止めないこと、また、子ども同士や先生と関係

を築く中で、成長が生まれると考える。

【ヤンジカ委員】先日、大井川東小でモンゴル文化講座を行ったが、一部の生徒はオンラインでハイブリットでの授業となった。とても良いと思った。

【高畑会長】このコロナ禍で、デバイス（ポケトークやタブレット）の使用は進んだか。

【市】16か国語で対応するテレビ電話機能のあるタブレットの使用は進んでいる。

【鈴木委員】我々の日本語教室では、日本語を教えるだけでなく、焼津を知ってもらうことを目的としている。教室に来て顔をみながら話すことで、「ほっとする」と考えている。生徒は多い時は20人くらい、ほとんどがベトナム人。

【高畑会長】コロナが落ち着いた後、地域に色々な日本語教室ができるとうれしい。コミュニケーションを取ることで人は成長していくと思う。昨日モンゴル祭りがあったが、その様子を教えてほしい。

【ヤンジカ委員】多くの人 came。お祭りを通して、国際感覚を養い、海外に興味を持つきっかけになれば。

【佐野委員】公民館まつりなどに、モンゴル祭りの地域版みたいなものを作ってもらうことは可能か。自治会長は、外国人住民の状況を知らない。実情がわかると取組ができる。地域の中にどのように点在しているのか。以前はアパートの人が多かったが、今は一戸建てに住み地域に根付いている。10年前とは違う。<

【高畑会長】国勢調査のメッシュ地図を使うと、人数を可視化できると思う。また、出張イベントもとてもいい取組だと思う。行政にその仕組み作りをしていただきたい。

以上